

[021] 中国文学論集表紙奥付等

<http://hdl.handle.net/2324/9893>

出版情報：中国文学論集. 21, 1992-12-31. 九州大学中国文学会
バージョン：
権利関係：



編集後記

本学言語文化部の秋吉久紀夫先生は平成五年三月を以て定年退官を迎えられます。本号を先生の御退官の記念号としてここにお届けできませんことを、編集に携わった者の一人として心より嬉しく存じております。私事ですが、私は教養部時代に先生のゼミを学生一人、つまり先生と一対一で受けさせていただいたことがあります。何しろ一対一ですから次回も百パーセント私に当たります。習いたての中国語で、たくさん辞書を引くのも大変でしたが、その時先生の使われたテキストが拼音ローマ字ではなく、注音符によるものだったのでまた苦労した覚えがあります。しかし先生がそうしたテキストを取って課された意味を私が改めて悟ったのはもっと後のことでした。その時先生が強調されたのは、中国語の発音に於いては、ローマ字の綴り方に惑わされずに、耳で聞いたとおりの音声として身につけなければならないということでした。今考えますに、ともすると綴り字に引きずられがちな初学者にとって、拼音ローマ字以外の音声表記システムを学ぶことは、発音の矯正に大きな意味があります。これも一つ一つの文字の発音を大切になさった先生の御配慮だったのでしょう。また御自身が詩人であられる先生は、和訳の際にも日本語の語感をとっても大切になさいました。一度直訳して意味を捉えた上で、今度は日本語として十分吟味するように繰り返し指導されたことを思い出します。不肖の弟子として、今自分が授業を行う際にも、こうした先生のお教えを忘れないようにしたいと思います。先生が九大を去られるに当たり、我々は先生に心からお礼を申し上げたいと思います。

(明木茂夫記)